



つちおと

(槌 音)

五訓 禮規勤自健
儀律勉治康

三条市立裏館小学校
学校だより NO.5

令和元年7月23日

明日から、たくさんの1学期の思い出とともに「夏休み」がスタートします！

若草朝会で給食委員会が、正しい食器の返し方を呼び掛けたり、3年生が凧協会の人に助けてもらいながら、凧揚げ体験をしたりと、1学期終わりの7



月も子どもたちがよく頑張りました。地域の方々から学び「自分たちで学校生活をもっとよくしていこう」と考えての動きが、裏館小

【若草朝会 給食委員会の劇 7/18】 【凧揚げ体験活動 3年 7/17】 学校全体を活性化しています。子どもたちの主体的な活動の展開が大切です。

朝の児童玄関前の挨拶も、校長の私が『カスタネット』を持つようになってから、笑顔でリズムよく一日をスタートしようとする子が増えたり、今まで以上にタッチを喜んでいる子が多くなったりしています。ご家庭での朝の「おはようございます」の挨拶や「行って来ます」の掛け声はどうでしょうか。家の中で、元気な声が響き合うことが一番です。学校でやれることは、家庭でもできます。学校と家庭の両輪で子どもたちをよりよく伸ばしていくことができたらすてきです。夏休みに入っても、朝の挨拶が、それぞれの家や地域内で元気よく展開されることを願っています。

裏館小学校のエアコン取り付けの工事が始まりました。学校全体で完全に設置が終わって、稼働できるようになるのは、9月に入ってからになります。その日を楽しみに待ちましょう。子どもたちによりよい学ぶ環境を準備してくれる三条市と県、国に感謝です。快適な環境の下で、よりよい学びができるようになることでしょう。

昨年の記録的な猛暑を思うと今年の気候の違いを感じざるをえません。子どもたちには、いい汗を流して、心も体も成長する夏休みにしてほしいです。

【各地区PTAラジオ体操の初日&活動場所連絡】

※ 大勢の地域のみなさんの参加をお願いいたします。

- | | | |
|-------------|---------|-------------------------------------|
| ○西裏館 | 7/29(月) | 第三中学校玄関前 |
| ○東裏館・新光町・居島 | 7/29(月) | 市役所玄関前、裏館小学校玄関前 |
| ○旭町・神明町 | 7/25(木) | 厚生会館体育館側駐車場 |
| ○横町 | 7/29(月) | 横町会館前公園 |
| ○荒町・石上 | 7/25(木) | 荒町地区 みなみ調剤薬局荒町店駐車場
石上地区 スタジオf駐車場 |
| ○本町・元町・八幡町 | 7/25(木) | ステージえんがわ |

☆ 裏館小学校での「PTAラジオ体操全体会」は実施しませんが、各地区の会場でしっかりと頑張りましょう。キビキビ体操する子が裏館っ子です！



「言葉の力」：「いまを生きるあなたへ贈る詩50」の中から

「言葉の力」

暖かな春の4月、小学校に入学したばかりの1年生の国語教室（国語の授業）。小さな子どもたちが、一生懸命に文字を書いています。初めて学ぶ、平仮名という文字。「あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと …」バラバラに並べてみれば、たった46文字の文字にすぎません。でもこの文字たちがいくつか集まって、言葉をつくる時、その言葉は信じられないほどの大きな力をもつ存在となります。

「う・ま・れ・て・き・て・く・れ・て・あ・り・が・と・う」

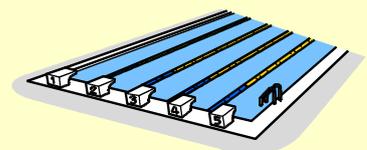
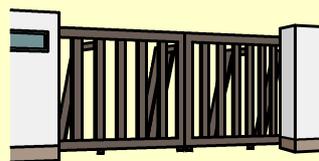
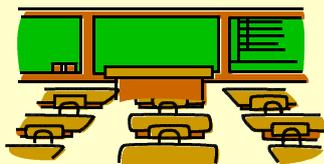
この社会で生きていくことがイヤになり、様々な非行を繰り返して警察に補導された子どもに、その母親が手紙で綴った言葉です。中学生のその子は、手紙を読みながら、声を上げて泣いたそうです。そして、また、人を信じることを始め、学校へ戻っていきます。わずか14個の文字が、彼を救いました。

「ば・か・．．．し・ね・．．．き・え・ろ・．．．き・も・い」

このたった10個の平仮名。何回かキーをたたき、メール送信ボタンを押すだけで、相手の元にあつという間に届きます。その人が、どんな表情で文字を読むかを知ることもなく。けれども、もし、その人が自分の前にいたら、この10文字の文字を並べるとはきっと難しいでしょう。自分の声はその人に伝わりやすくなるから。受け取ったその人の思いが見えるから。だから、きっと躊躇するはず。言葉は恐ろしい。その人の心を深く傷つけ、時として命をも奪うこともあるのです。

だから、国語教室（国語の授業）で子どもたちは学ばなければなりません。言葉は、時として人を救うこと。時として人を傷つけること。自分の使う言葉がそれを受け取る人にとって、どんな意味をもつのか考えなければならぬこと。安易に言葉を並べてはいけないこと。それほどに言葉は重いこと。だから、そして、国語教室で子どもたちは学ばなければなりません。

一編の詩を学習材に、言葉が美しい作品世界を創り上げていること。言葉のもつ面白さ、楽しさ、不思議さ。一編の物語を学習材に、言葉が人間の生の真実を描いていること。言葉のもつ巧妙さ、すばらしさ、凄さ。だから、どうしても国語教室で、子どもたちは学ばなければなりません。言葉を読む力、言葉を書く力、言葉を話す力、言葉を聞く力。その言葉の力を獲得することは、人間としてこの世を生きていくために、何よりも必要な力だということ。言葉の力は、生きる力だということ。



☆ 授業で、生活で、人との関わりで、いろいろと考え、試行錯誤していきま。失敗しながらも、成長する人でありたいものです。いつまでも。

※ この本の著者は二瓶弘行氏。新潟県小学校教員の先輩です。現在、桃山学院大学教授です。ここに示した「言葉の力」は、一部分を小林が改作しました。<(_ _)>

【「槌音（つちおと）」文責 校長 小林徹哉】